



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/3 (月)	+ 200	▲ 82,000	▲ 81,800	国債発行償還 (2年) 国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 500		日：3-7日 為替介入実績 (4-6月) 米：ISM製造業景況指数 (7月)
8/4 (火)	トン	▲ 59,000	▲ 59,000	法人税、消費税、保険揚げ			米：貿易収支 (6月) 製造業受注 (6月)
8/5 (水)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (10年)	共通担保 ▲ 8,000		日：日銀金融政策決定会合 議事要旨 (6月15・16日分) 米：ADP雇用統計 (7月) ISM非製造業景況指数 (7月) 欧：ユーロ圏PPI (6月)
8/6 (木)	トン	トン	トン				欧：ECB経済報告 ユーロ圏小売売上高 (6月)
8/7 (金)	トン	▲ 6,000	▲ 6,000	国債発行 (30年)			日：GPIFが4-6月期の運用実績を発表 景気先行CI指数 (6月) 米：失業率 (7月) 非農業部門雇用者数変化 (7月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆700億円増加の440兆4,400億円から始まった。その後、各種財政資金支払いや国債買入等の要因により増減し、31日は438兆700億円（速報）で越過した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.978%から始まった。その後、一部金融機関による試し取りが行われた影響等により、0.977%～0.980%のレンジで推移した。

ターム物は1W～3W物0.984%～1.150%のレンジ、1M～3M物1.045%～1.270%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では8月5日に日銀金融政策決定会合議事要旨（6/15・16日分）の公表、7日にGPIFの4-6月期の運用実績の発表、海外では6日にユーロ圏小売売上高（6月）の公表、7日に米雇用統計の公表などがある。

【無担保コールレート】

	予想レンジ (%)
O/N	0.950 ～ 0.978
1M	1.05 ～ 1.10
2M	1.10 ～ 1.20
3M	1.20 ～ 1.30
6M	1.30 ～ 1.50

＜レボ＞

足許GCは週央まで1.000%～1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。月末を跨ぐ取引となる30日には、1.000%を下回る水準での出合いも見られた。以降は1.000%～1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。

SC取引は2年470～486回債、5年155～185回債、10年356～372、378～382回債、20年110～130回債、30年86～90回債などに引合いが見られた。

【オープン市場】

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.1 ～ 1.2

＜CP＞

今週の入札発行総額は3兆900億円で、週間償還額の3兆3,910億円を下回った。発行残高は、先週末時点の26兆6,548億円から、7月30日時点で26兆3,253億円へと減少した。発行市場では、食糧品・機械・不動産業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.1%台、3ヶ月物で1.1%程度から1.2%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆5,500億円となっている。発行市場は、夏季休業を控えた一部企業による資金調達の前倒しが想定されることから、活況なマーケットが見込まれる。7月30・31日に開かれた金融政策決定会合において、政策金利は据え置きの結果となった。発行レートについては、日本銀行の今後の追加利上げに対するスタ

＜TDB＞

30日の3M（第1397回債）の入札は、最高落札利回り1.0113%（前回債1.0092%）、平均落札利回り1.0036%（前回債0.9907%）となった。

来週の入札は6日に6M、7日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。